

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	英語表現法	
科目基礎情報							
科目番号		0109		科目区分	一般 / 分野必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科		創造工学科（化学・生物コース）		対象学年	5		
開設期		後期		週時間数	後期:2		
教科書/教材		なし					
担当教員		阿部 秀樹					
到達目標							
英語で発表をする事を目指していく授業です。流暢な英語の発音で自らの考えを英語で発信する力を高めることが主な目標です。ナチュラルスピードの英語に慣れ、授業で習った単語・表現を使い、自分の言葉で書いたり話したりする練習もします。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 英語の表現を身に着ける。		英語の表現を身に着け、状況や話の流れに応じて使う事が出来る。		英語の表現を身に着け、使うことが出来る。		英語の表現を身に着ける事が出来ない。	
評価項目2 自分の考えを英語で書いて、文章で表現する。		自分の考えを英語で書き、語彙や文法の間違いがなく、読む人に考えを伝えることが出来る。		自分の考えを英語で書き、概ねの内容を、読む人に伝えることが出来る。		自分の考えを英語で書いて表現出来ない。	
評価項目3 自分の考えを英語で発表し、質疑応答を行う。		発表することで、英語で自分の考えを伝え、相手の質問にも正確に答える事が出来る。		発表することで、英語で自分の考えを概ね伝える事が出来る。		英語で発表が出来ない。	
学科の到達目標項目との関係							
(F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。							
教育方法等							
概要		英語で発表をする事を目指していく授業です。流暢な英語の発音で自らの考えを英語で発信する力を高めることが主な目標です。ナチュラルスピードの英語に慣れ、授業で習った単語・表現を使い、自分の言葉で書いたり話したりする練習もします。					
授業の進め方・方法		英語で文章を書き、その内容をパワーポイントを使って発表します。また、発表だけでなく、質疑応答にも対応できるように、英会話のアクティビティも行い、日常会話で英語での意思伝達が出来るとような能力を高めていきます。					
注意点		提出物の締切、発表のリハーサルなども評価の対象とします。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス ゲストによるスピーチ		学年末までの授業の内容と目指しているものを理解する。		
		2週	遠隔授業による哲学とプレゼンに関する講義。		内容を理解し、課題を期限までに提出する。		
		3週	遠隔授業による哲学とプレゼンに関する講義。		内容を理解し、課題を期限までに提出する。		
		4週	遠隔授業による哲学とプレゼンに関する講義。		内容を理解し、課題を期限までに提出する。		
		5週	プレゼンの内容を決める。		10分という時間で発表できる内容を決め、教員に報告する。		
		6週	効果的に使えるフレーズ、パワーポイントの表示について。		英語の単語・表現を学び、今後応用できるように理解する。		
		7週	内容を日本語で発表する。哲学の授業で習った知識と照らし合わせ、内容に問題がないかを確認する。		発表の全体像を確認する。		
		8週	発表する内容を英語で書く。		英語で書いた内容を教員に提出する。		
	4thQ	9週	教員が校正した英語をもとに、発表の原稿を書く。		文法・語彙・表現が正確な英語を書く。		
		10週	1回目のリハーサル。英語で発表し、教員からの質問にも英語で答える。		発表内容の英語を客観的に見る。教員だけでなく、他の学生も理解出来ているかを確認する。		
		11週	英語の発音の確認する。		正確に発音できているかを機械を活用して確認していく。		
		12週	英会話のアクティビティを行う。		発表だけでなく、通常の会話の力もつける。		
		13週	英会話のアクティビティを行う。		発表だけでなく、通常の会話の力もつける。		
		14週	2回目のリハーサル。英語で発表し、教員からの質問にも英語で答える。		内容、発音、時間配分などの最後の見直しを行う。		
		15週	一人約10分のプレゼンとその質疑応答を英語で行う。		正確な文法や英語表現で発表し、発表後の質疑応答にも英語で的確に答える。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。		3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。		3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。		3	

				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0